

# 丸山 五輪つかむ 阿部



**丸山 城志郎**

- 1993年8月11日生まれ
- 高崎市出身
- 187センチ
- ミキハウス所属
- 沖学園高一体育大
- 得意技(内股)
- 19年世界選手権王者
- 左組み

**阿部 一二三**

- 1997年8月9日生まれ
- 神戸市出身
- 168センチ
- パーク24所属
- 神港学園高一体育大
- 得意技(背負い投げ、袖のり込み)
- 17、18年世界選手権王者
- 右組み

丸山の決まり技	両者の対戦成績	阿部の決まり技
優勢	15年講道館杯準々決勝	優勢(延長)
優勢(延長)	16年選抜体重別決勝	優勢(延長)
優勢(延長)	17年GS東京決勝	大内刈り(延長)
優勢(延長)	18年GS大阪決勝	
優勢(延長)	19年選抜体重別決勝	
優勢(延長)	19年世界選手権準決勝	
	19年GS大阪決勝	優勢(延長)

※丸山の4勝3敗

## 「強い気持ちで闘う」

## 「豪快な一本を取る」

柔道の東京五輪代表で唯一確定していない男子66キログラム級の代表決定戦が13日、東京・講道館で行われ、丸山城志郎(ミキハウス)と阿部一二三(パーク24)が激突する。両選手は10日、全日本柔道連盟(全柔連)を通じて決戦に向けたコメントを発表した。戦績は丸山が4勝3敗とリードするがいずれも紙一重で、今回も新旧世界王者による対決は激闘が必至だ。どちらが勝つのか。「心技体」の視点から関係者に注目点を聞いた。(末継智章)

### 柔道66キログラム級 13日代表決定戦

東京五輪代表決定戦を争う両選手が10日、全日本柔道連盟を通じてコメントを発表した。丸山は「強い気持ちで闘う姿を皆さまにお伝えできたらと思う」と述べ、阿部は「豪快な一本を取りに行く自分の柔道をして勝ち切り、五輪代表を必ず決める」と宣言した。昨年、世界選手権で初優勝した27歳の丸山は新型コロナウイルス禍を迎える決戦を目前に控えて「注目をいただいていることを重々承知しております」と自覚。さらに「大変な思いをされている医療従事者の皆さまをはじめ、多くの方がスポーツどころではない現状も理解している」と配慮し「今、自分ができることは、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず闘うこと」と決意を述べた。

2017、18年世界王者で23歳の阿部は自信たっぷり。「試合に向けて、しっかりと勝つ準備をしてきた」と仕上がりの良さをうかがわせた。柔道の東京五輪男女日本代表は13階級で決定。男子66キログラム級だけが決まっていない。

### ワンマッチは日本柔道で初

全柔連によると1試合限定の「ワンマッチ」方式で五輪代表を決めるのは日本柔道史上初。新型コロナウイルス禍の中、無観客開催など異例なための決戦に、運営側も最大限の配慮をしている。新型コロナ感染対策で両者は試合数日前にPCR検査を受ける。陰性ならば試合前日までに指定宿舎に入り、外部との接触を遮断する。当日に

同行できるのは指導者ら各5人に制限。その他の関係者や報道陣ら約100人は動線を分ける。試合は五輪と同じ国際ルールを適用し、計量は前夜に実施。講道館の畳も国際大会仕様の赤と黄色の畳に張り替える。大きな重圧がかかる主審は五輪や国内外の主要大会を務めて経験豊富な女性審判の第一人者、天野安喜子さんに託される。歴史的な一戦の会場は柔道の総本山で、競技創始者の嘉納治五郎の肖像が見守る。厳格な雰囲気や尊重する姿勢は畳の裏面に透き通る。試合の模様はインターネットのライブ配信で世界中に届けられる。また、テレビでもTBS九州放送などテレビ東京系列で13日午後4時から放送される。中心となって計画を練った全柔連の本郷光道さんは「両者が集中できる環境づくりに苦心した。良い形で盛り上げれば」と願う。最高峰の闘いは一刻一刻と迫ってきた。



- リオデジャネイロ五輪以降の丸山の足跡
- 2016年11月 講道館杯全日本体重別選手権5位
  - 17年4月 全日本選抜体重別選手権3位
  - 11月 講道館杯全日本体重別選手権優勝
  - 12月 GS東京大会2位
  - 18年2月 GSパリ大会2位
  - 4月 全日本選抜体重別選手権優勝
  - 8月 ジャカルタ・アジア大会2位
  - 11月 GS大阪大会優勝
  - 12月 マスターズ大会優勝
  - 19年2月 GSデュッセルドルフ大会優勝
  - 4月 全日本選抜体重別選手権優勝
  - 8月 世界選手権で初優勝
  - 11月 GS大阪大会2位
  - 20年2月 左膝負傷でGSデュッセルドルフ大会欠場 ※GSはグランドスラム

### 心

### 「無観客」丸山影響なし

試合は関係者のみが入場できる無観客試合。特殊な状況が心理面を左右するとの予想もある。沖学園高で丸山を指導した伊藤和幸監督は「丸山は不動心。周りに関係なく自分の意志を持って柔道をするから影響はない」と教え子を信じる。阿部を高校時代に指導した神港学園高OBの正木照夫氏は「阿部は会場の歓声に気持ちを乗せるタイプ。経験したことがない無観客で力を出し切れるか」と不安視した。過去7試合で1度だけ、一本勝ちで決着がついたのが2017年のグランドスラム(GS)東京大会決勝だった。阿部が大内刈りで仕留めた。パルセロナ五輪男子78キログラム級金メダル

### 技

### 阿部「持てば」必勝の形

丸山は左組み、阿部は右組みの「けんか四つ」。阿部と4回、丸山と2回対戦した18年GSデュッセルドルフ大会男子66キログラム級覇者の田川兼三氏(学習院中等科教員)＝長崎市出身＝は「阿部選手は引き手の絞り方がうまくて力強い。持てば必勝の形。それがけんか四つだとお互いの釣り手から持つ形になり、袖を絞りづらいのでは」と阿部が苦戦する理由を推測する。ただ、神港学園高の信川厚総監督は「苦手は克服してい

が、丸山に負けてから投げられるのを恐れるようになった。攻める柔道が持ち味。開き直れるか自分との闘いになる」と語る。

沖学園高の伊藤監督は「城志郎は勝ちを焦り、引き手が袖ではなく襟を持っていた。内股をかけるには袖を持たないと」と同じく引き手に注目した。

### 体

### 「今まで以上の試合に」

昨春の全日本選抜体重別選手権や昨夏の世界選手権では序盤は猛攻を仕掛けていた丸山のペースになった。信川総監督は「延長になれば体力面で丸山選手に分があるが、爆発的な力を持つのは阿部。先手必勝が鍵になる」と序盤戦に注目。昨年の対戦はどちらかがけがを抱えていた。11月に両者を視察した男子日本代表の古根川実コーチは「大きなけがもなく、調子を上げていたので今まで以上の試合になると思う」と予想。懸念は本来のトーナメント戦なら決勝を迎える夕方に一発勝負で行われる点。「いきなり力を出し切るよう、朝から試合までどう準備するか。両者とも難しそう」と勝負のポイントを明かした。



- リオデジャネイロ五輪以降の阿部一二三の足跡
- 2016年12月 GS東京大会優勝
  - 17年4月 全日本選抜体重別選手権優勝
  - 8月 世界選手権で初優勝
  - 12月 GS東京大会優勝
  - 18年9月 世界選手権2連覇。妹の詩と同時優勝
  - 11月 GS大阪大会2位
  - 19年2月 GSパリ大会で初戦敗退
  - 4月 全日本選抜体重別選手権2位
  - 6月 左足首付近の靭帯(じんたい)損傷
  - 8月 世界選手権3位。準決勝で丸山に敗れる
  - 11月 GS大阪大会優勝
  - 20年2月 GSデュッセルドルフ大会優勝 ※GSはグランドスラム

▲2月のGS大会で攻める阿部(共同)